

# 名城大学機械会誌

## 発行所

名古屋市天白区塩釜口1丁目501番地  
 名城大学理工学部機械工学科内  
**名城大学機械会**  
 TEL (052) 832 - 1151 (代)  
 FAX (052) 832 - 1235  
 URL: <http://meijo-kikaikai.jp/>

## 名城大学機械会 第 61 回総会のご案内

下記のように第 61 回総会を開催します。

会員諸氏の多数のご出席を心よりお待ちしております。

名城大学機械会 会長 江上 登

- 日 時** 平成 30 年 6 月 10 日 (日) 9:30 ~ 10:20
- 場 所** 名城大学天白キャンパス 共通講義棟南館 S402 教室
- 次 第** 司会者、開会の辞、会長と学科長の挨拶  
 議長団選出 (議長・副議長・書記・議事録署名者)  
 議事 ・29 年度事業報告  
       ・29 年度会計報告及び監査報告  
       ・30 年度事業計画案  
       ・30 年度予算案  
 ★新役員及び新評議員紹介  
 ★新入教員の紹介
- ☆理工同窓会 記念講演・・・10:30 ~ 11:45 共通講義棟北館 N101 名城ホール  
 講師・・・名古屋大学 未来材料・システム研究所  
 未来エレクトロニクス集積研究センター長・教授  
 工学博士 天野 浩 氏  
 受賞歴：ノーベル物理学賞 (2014)、文化勲章、日本学術会議会長賞など多数受賞
- 演題・・・トランスフォーマティブエレクトロニクスが築く持続可能スマート社会
- ☆理工同窓会総会・・・11:55 ~ 12:45 共通講義棟北館 N101
- ☆懇親会・・・13:00 ~ 14:30 タワー 75 15F レセプションホール



■名城大学正門 LED ゲート (平成 29 年 12 月竣工)

## 名城大学 100 周年に向けて

名城大学 機械会 会長 江上 登  
昭和 41 年卒



機械会会員の皆様におかれましては、益々お元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。

今回の会誌発行に際して 3 点、皆様にご報告させていただきたいと存じます。

一つ目として、名城大学は 8 年後の 2026 年、開学 100 周年を迎えます。機械工学科の歴史も機械工学科の前身を含めると名城大学の歴史と同じであります。

名城大学は 100 周年に向けていろいろな企画を計画中であります。その日のために、名城大学機械会としても種々の準備をしないとイケない時期に入ってきております。

機械会会員の皆様におかれましても、母校の 100 周年をなにとぞご支援くださいますようお願い申し上げます。

二つ目は、皆様には昨年の会誌やホームページでご案内しましたように、2017 年 11 月 11 日、名城大学機械会は設立 60 周年記念式典、記念講演会および記念祝賀会を開催しました。

名城大学学長の吉久 光一先生をはじめ、多くのご来賓の皆様、一般参加していただきました機械工学科の卒業生の皆様、ご支援賜りました企業の皆様、そして、ご協力いただいた方々を含めると約 300 名の皆様にご参加いただき、盛大に催すことができました。記念講演会ではノーベル賞授賞者の天野浩先生にご講演をいただきました。

ご参加、ご支援、ご協力をいただきました皆様には

この紙面をお借りして厚く御礼を申し上げます。

三つ目は、名城大学機械会の直前会長でありました澤柳正道氏が 2017 年 12 月 5 日にご逝去されました。

詳細は元会長の堀川氏が澤柳氏を偲ぶと題してのページがありますので、そのページをお読みいただきたいと存じます。

澤柳氏は、名城大学機械会会長、直前会長として活躍され、理工同窓会副会長や名城大学校友会常任理事を歴任され、大学や同窓会の将来について側面から支援をしていただいております。

今は、澤柳氏のご冥福をお祈りしたいと存じますとともに、皆様にご報告申し上げます。

最後に、小生、機械会の会長を引き受けてから間もなく 3 年になろうとしております。当初は 1 期 2 年を務めさせていただく予定でいしましたが、60 周年記念行事の関係で 3 年間務めさせていただきました。この 3 年間で何ができたろう？と自問すると、機械会の活性化は中途半端な状態で、まだまだ自分の思うレベルには到達していない状態で歯がゆい思いをしています。

前号の機械会誌でも申し上げましたが、卒業生の皆様、どうか機械会の活性化にお力をお貸しいただきたいと存じます。ご協力いただける方は機械会事務局まで是非ご一報いただきたいと存じます。

皆様の積極的なご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のますますのご活躍・ご発展とご健勝をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

### ■■■■■ 機械会からの重要なお知らせ ■■■■■

#### 「名城大学機械会誌」の送付について

機械会では、毎年発行している会誌を平成 28 年度より、機械会ホームページにて印刷出力可能な様式で公開しております。

機械会誌 52 号は、昨年度 51 号送付時に同封しました「郵便はがき」で、引続き会誌送付を希望された会員の方々に、機械会誌を送付いたしました。

「郵便はがき」を返送する機械を逸した会員の方で、引続き会誌送付をご希望される方は機械会事務局までご連絡ください。引続きの会誌送付をいたします。

## 機械工学科の近況報告

機械工学科

学科長 藤山 一成



昨年度に引き続き平成 30 年度も機械工学科の学科長を務めさせていただきました藤山です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。さて、昨年度は機

械会創立 60 周年式典が盛大に行われ、記憶に残る年となりました。また、多大なる基金のお申し出をいただき厚く御礼申し上げます。これからも機械会と機械工学科の力を合わせて会員の皆様のお役に立つ活動ができますよう努めてまいりたいと思います。

さて、機械工学科は、現在教員数 15 名で教授 7 名、准教授 7 名、助教 1 名の構成となっております。昨年度は宇佐美勝先生が定年退職され、今年度は中西淳先生が新たに教員となりました。

宇佐美先生は、その誠実な人柄と、真摯な姿勢で学科を導いていただいていたのですが、特に、教務委員長の重責を担われ、また学科長としても学科の運営に力を尽くされてきました。今後とも機械会などの場で私どもにご叱正やアドバイスをいただきたいと思っております。

新任の中西先生は、本学科の運動力学・制御分野の強化・充実を図る上でのキーマンとして名古屋大学からお迎えしました。先生のご専門は知能ロボットの制御に関する研究で、講義科目としては制御工学やコンピュータプログラミングなど機械の情報化時代に適合した最新の教育を行っていただけるものと思います。また、国際的にも活発な活動を展開しておられることから当学科のグローバル化に貢献いただけるものと期待しています。

現在、機械工学科は、「熱・流体」、「材料・強度」、「設計・生産」、「運動力学・制御」の 4 分野で構成され、機械工学の幅広い分野を網羅する体制となっております。入学定員は 125 名ですが、文科省からの定員厳守の指導もあり、入学者数はこの数以下に抑えることが求められております。これまでに比べてきめの細かい教育を行っていくことで、少数精鋭型の人材育成に努めて参りたいと思っております。

人材育成面では体験型学習を重視しており、例えば

1 年次から「機械工学実習」で、実際の機械加工技術を体験するカリキュラムを組んでおり、早い段階で機械工学を肌身で感じることができるようにしています。

また、3 年次の「機械設計・製作」においては、自ら発想した機械のコンセプトを具体的な図面にまで落とし込み、さらに自ら製作しかつ製作物の評価と改善を 1 年かけて行い、PDCA サイクルを体験する内容となっています。その受講者の中から、グローバルなコミュニケーション力を一層高めるために、米国カリフォルニア大学との連携による「機械におけるグローバル設計交流研修～機械設計製作異文化交流～」をアブラハ先生が中心となって実施し、参加した学生の意識改革に著しい効果をあげています。

今年度はカリフォルニア大学のグループが来日し、様々な交流活動を行うことが予定されており、本活動の一層の広がりが期待されます。本活動は MS-26 の一環として「大学の学びのコミュニティ創出支援事業：ミニマシンの設計・製作」事業に位置付けられています。

なお、実践型授業を支える実習工場につきましては、非常勤講師の 68 歳年限の制約から「機械工学実習」授業などにおいて担当講師の確保に大変な困難に直面致しました。今年度はある企業様から全面的なご協力をいただきかろうじて充当することができましたが、今後もこの状況は続くものと思いますので、機械会の皆様におかれましてもこれまで同様ご理解・ご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

以上のように、大学をとりまく環境は厳しいものがありますが、機械工学の社会における必要性や重要性は変わることがなく、社会の変化を敏感に読み取りながら、教育と研究に着実な改善を積み重ねていくことが私どもの使命と考えており、機械会の皆様の一層のご支援・ご指導のもと努力して参りたいと存じますので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## 2017 年度の就職状況

機械工学科 就職・進路支援委員

來海 博央



最近の就職状況は、ニュース等の報道にもある様に「売り手市場」と言われています。2008年のリーマンショック以降、求人状況は良くありませんでしたが、2013年の政権交代後、円安や株価の上昇が進み、徐々に求人数が回復してきました。さらに2015年に就職解禁時期が変更され、ここ数年で人材を十分に確保できなかった企業の採用数の増加も拍車をかけ、本学科における求人件数は約15,000件(約130社/1人)以上と右肩上がりとなっています。求人は、自動車関連企業をはじめ、工作機械や材料のメーカー、プラント、社会インフラ、建設、建築、食品、コンサルタントなど、機械と直接関係ないとも思える分野も含め多岐に渡っています。職種では生産技術職を中心に求人が増え、ものづくりを支える機械技術者のニーズと本学卒業生の社会的評価の高さが伺えます。

採用活動は2015年に経団連の採用活動指針に大きな変更があり、2016年からは企業説明会が3月1日から、選考は6月1日からとなっています。しかしながら、多くの企業で4月からマッチング面談やジョブマッチングと称した実質的な選考が始まり、6月1日以降に最終面接や確認面接を実施されています。外資系や中堅・中小の企業においても上記指針とは関係ない採用活動となっています。一方で、完成車メーカー等の超大手企業は経団連の指針を遵守した選考が行われています。昨年度の採用活動の特徴は、夏・冬・そして2月に開催されるインターンシップの考慮や、ここ2年間で十分な採用ができなかった大手企業の採用活動の早期化、一部大手企業の採用数の大幅増(例年の数倍)、そして採用職種の細分化が挙げられます。選考における評価ポイントは「学力」と「人間力」で、前者では「SPI」や「基礎・専門試験」など、後者は「適性試験」や面接での「志望動機や熱意」、「コミュニケーション能力」、「キャリアビジョン」、「自己PR」などです。

大学の就職支援体制は、数年前に比べて大変充実してきています。具体的には、1年時の学科就職担当による「就職状況と学生生活の過ごし方」の講義と大学キャリアセンターによる「職業適性テスト」に始まり、3年生後期には外部講師による「コミュニケーション力の向上」や「自己PR」のための講演を行っています。3年生と大学院1年生には、12月に就職ガイダンス、1月末に就職希望調査、2月末から学校推薦者の決定を行っています。これらの合間に、キャリアセンターを中心とした就職ガイダンス、就職試験講座、自己PR講座、面接模擬講座、履歴書道場、業界研究セミナー、学内企業セミナー、個別相談・指導、インターンシップ支援などの多数の就職支援行事が、1～4年生の適切な時期に開催され、4年生の就職活動に向けて仕事観が醸成し、準備が整う様に考えられています。就職活動直前では、大学に来れば何らかの就職支援行事が

開催され、学生をサポートする環境が整っています。

これらのサポートもあり、2017年度の就職希望者の就職内定率は、大学院・学部ともに100%(2016年度100%)で、就職を希望する学生は全員進路を決定することができました。就職先の85%程度が製造業であり、地元の自動車関連企業を中心に、工作機械メーカーなどへも就職しています。従業員別では500人以上の企業へ8割以上、1000人以上の大企業へは6.5割程度の学生が就職しています。推薦での就職希望は、学部生で50%(後付推薦を含む)、大学院生で70%となっています。一方大学院への進学者は30名で、本学大学院へ27名、他大学大学院へ3名(名古屋大学2名、岐阜大学1名)が進学し、就職状況が良い中でも、大学院進学への関心が高く、進学率は22%と理工学部中でも高い状況(理工学部平均:17.1%)にあります。しかし、有名国立大学の大学院進学率は約90%であり、今後多くの学生が大学院に進学し、社会に出て活躍することを期待しています。

今後も、地球規模で展開される流れの速い経済活動の中で、十分に活躍し、そして貢献できる機械技術者を地道に輩出することが大学そして機械工学科の責務と考えています。東海地区には魅力的な企業が多数存在しています。これらの魅力ある多くの企業に新たな人材を幅広く送り込み、活躍していただくことが今後の課題と考えています。最後に、主要な就職先企業を掲載するとともに、機械会の皆様には今後も変わらぬご指導ならびにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### [大学院]

アイシン精機、アドヴィックス、大同特殊鋼(株)、大同メタル工業(2名)、スズキ、CKD、JR東海、ジェイテクト、住友電装(2名)、東海理化電機製作所(2名)、豊田合成、トヨタ自動車、豊田自動織機、トリニティ工業、ナブテスコ、日鉄住金テックスエンジ(2名)、日本ガイシ、日本特殊陶業、不二越(2名)、武蔵精密工業、村田機械、メニコンネクト、ヤマザキマザック、ヤマハ発動機、レシップ、など

### [学部]

愛三工業(4名)、アイシン・エイ・ダブリュ(5名)、アイシン精機(2名)、愛知機械工業、青山製作所、朝日インテック、石塚硝子、オーエスジー、小島プレス工業(2名)、三五、CKD(2名)、ジェイテクト、シヤチハタ、シロキ工業、SUBARU、住友電装、大同メタル工業、太平洋工業(2名)、大豊工業、東海理化電機製作所、トヨタ車体精工、豊田鉄工(3名)、トヨタ紡織(7名)、トリニティ工業、トンボ鉛筆、フジキカイ(2名)、マキタ、松尾製作所(2名)、山崎製パン(2名)、ヤマザキマザック、など  
大学院進学(30名):名城大(27名)、名古屋大(2名)、岐阜大(1名)

## 定年のご挨拶

機械工学科

教授 宇佐美 勝



2005年4月に、それまで勤めていた三重大学を退職してこの名城大学に着任し、以来、13年間を過ごさせて頂きました。ここに無事、定年を迎えることができましたのは、機械会をはじめとする皆様方のご温情の賜物と深く感謝申し上げます。現学科長の藤山教授と同期で着任したとき、当時の機械システム工学科には17人の教員がおられました。そしてそのうちの11人の先生が13年の間に退職され、代わりに、若い先生が学科に入ってこられましたので、私にとって多くの先生と接することができるという貴重な経験をすることができました。退職された先生を順に挙げさせて頂くと、まず1年後に中村育雄先生が退職され、2年後には竹野忠夫先生が、その後、藤田秀臣先生、そして、佐藤進先生、鈴木勝博先生、さらに、井村隆先生、江上登先生、小林明彦先生、少し遅れて前田隼先生、そして昨年、福田康明先生と大道武生先生が退職されましたが、この名城大学で知り合うことができたこれら先生方すべてから、これまでにない有意義なお教えを授かったことは私の人生の中に宝となって残っております。

大学の教員に課せられた使命は、教育と研究です。まず「教育」とはというと、担当した専門科目の授業「応用流体力学」と「流体機械」に関し、前任地の三重大学のときと比べて内容をもっと豊富にしようと、最初、プロジェクターを使った授業を中心に据えたのですが、これが評判がよくありませんでした。多くの書物から内容を集めて、精力的にパワーポイントの作成を行ったのですが、ひとコマの授業の中であまりに多くの内容を紹介したため、その話について来られるのは一部の学生だけで、多くの学生諸君には消化不良をさせてしまった感が否めませんでした。それに気がついた後は、黒板にはっきりと字を書いて授業を進めることにしましたが、板書が続けながら、かつ大きな声で90分間説明し続けるのは、傍から想像して頂く以上に肉体労働で、最近2年ほどは、90分授業を二つ連続して行くと、その直後は、放心状態に陥ってしまうほどでした。

二つ目の「研究」というと、直接シミュレーションモンテカルロ法(DSMC法)と呼ばれる大量の模擬分子を計算機の中で運動させる流体解析が中心なのですが、前任地の大学と比べて、研究に費やせる時間が極端に少なくなって、独創的な研究を遂行していくのが難しく、これまでに蓄積してきた内容を派生させる程度のことに終始してしまったように思えます。ただし、4年生の卒業研究指導に関しては、その方がかえって都合がよかったようで、卒業研究レベルよりも十分高度な内容を実践してもらえたものと自負しています。

着任して3年目と4年目は学科長を、5年目と6年目は入試委員、7年目と8年目は教務委員、そして9年目から12年目まで教務委員長と、非力な私にとっては耐え難いような委員が続きましたが、一方で教務委員長時代の時代には、理工学部のすべての学科の先生から大いに助けていただくことができ、大変有り難く感じた次第です。着任当初、機械会で初めて「名城節」を聴き感動を覚えました。明日は、3年間部長を務めた航空部の追い出しコンパが開かれます。やはりその最後に歌われる「名城節」を心に刻んで、名城大学を退職していきたいと思います。13年間、大変お世話になり有難うございました。

## 着任のご挨拶

機械工学科 運動力学・制御分野

准教授 中西 淳



平成30年4月1日付で、機械工学科運動力学・制御分野の准教授に着任致しました中西淳と申します。主に、知能ロボット制御を専門に教育研究活動に取り組んできております。簡単ではありますが、名城大学機械会の皆様方に着任のご挨拶を申し上げます。

名古屋大学工学部機械学科を卒業後、同大学大学院修士、博士課程に進学し、ロボットの運動制御に関する研究で博士号を取得致しました。また、修士課程在籍中にはミシガン大学（米国）に留学致しました。その後、同大学助手、南カリフォルニア大学（米国）、国際電気通信基礎技術研究所（京都府精華町）、科学技術振興機構 ICORP プロジェクト研究員、エジンバラ大学（英国）、ミュンヘン工科大学（ドイツ）を経て、帰国後、名古屋大学の特任准教授を2年間勤め、この度、名城大学理工学部機械工学科でお世話になることとなりました。

これまで動的システム論、制御理論、計算論的神経科学に興味を持ち、主にロボットや人間における運動学習制御の研究に従事してきました。人間や動物のような複雑かつ滑らかな運動生成の仕組みの理解とそのロボットにおける実現を目指し、特にタスクの表現および運動の実現に注目した研究に取り組んできました。また、近年では、内閣府 ImPACT プログラムにおける脳神経外科手術支援を目的とした医療ロボットの操作インタフェースの研究開発や、企業との共同研究を通じ、生活支援ロボットの操作性の向上を目指した研究を行い、将来的に実社会の役に立つロボットの研究開発に取り組んできています。

今後は、環境との相互作用を有するロボットの運動制御および人間が直感的かつ容易に操作可能な人間-機械協調制御系の研究に取り組みたいと考えております。ロボット制御分野は、政府の成長戦略分野にも選ばれ、社会への貢献に大きな期待が寄せられています。実社会のニーズに対応した新しい課題にも積極的に挑戦し、将来的な社会貢献につながる研究を目指したい

と考えます。また、これまで培ってきた国内外の研究ネットワークを活かし、各研究機関や企業との共同研究にもつなげて行きたいと考えています。これらにより、ロボットをはじめとした制御システムの高度化、人間-機械系の制御に関する研究の体系化を目指していきたいと考えております。

現在、機械システムにおいては、自動運転やロボットに代表されるような、環境認識や自律的判断を伴うシステムの知能化が進み、機械分野をはじめ、電気・電子、情報など多岐に渡る幅広い専門知識が求められる時代になってきていると感じております。これからの新しい時代において、社会で活躍できる人材の育成に寄与できるよう、学生の専門教育に携わっていきたいと考えております。

名城大学に着任してから一ヶ月ほどになり、新緑が美しい季節となりました。これまで、新しい環境において、機械工学科の教職員の皆様方をはじめ、学内の関係者の方々の手厚いご支援を賜り、教育・研究および校務に励んでおります。非常に恵まれた環境で、本学の一員として教育・研究活動に携わっていけることをとても嬉しく思っております。

至らぬ点多々あることと存じますが、名城大学の教育・研究および社会活動に少しでも貢献できるよう尽力していきたいと思っております。機械工学科および関係者の皆様方におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

## 澤柳正道氏を偲んで

名城大学機械会

元会長（第 8 代） 堀川 浩良

昭和 39 年卒

去る平成 29 年 12 月 5 日 第 13 代目機械会で機械会直前会長であられた澤柳正道氏が藤田保健衛生大学病院で入院加療中でしたが、御逝去されました。痛恨の極みであります。氏はまだまだ機械会の為、名城大学の為必要欠く如かざる人で、人望も厚く、実直な人でありました。

昭和 16 年 6 月 29 日に静岡で 9 人兄弟の 8 番目のお子さんとして生を受けられました。

高校は浜松工業高校を卒業された後、名城大学第 1 理工学部機械工学科に入学されました。

入学後は至誠寮に入寮され、卒業後も寮の方々との交流を重ね、遠くまでお出かけになり、皆様と御親交があり、先日の大学 90 周年等にも、募金を集めて学校に、納入されておられました。

卒業後はプラスチック総合商社の山宗株式会社の営業畑一途、福井県に赴任され、週末は愛知県のご自宅に帰られる生活をなされていました。

退職後は悠々自適、名古屋で、愛妻愛娘に囲まれ、家庭菜園に精を出され、親しい方々に野菜を配るのが楽しみの一つであったと聞いています。

他方、野球が御趣味で、大阪に嫁入りされたお嬢様から送ってもらう阪神グッズを嬉しそうに大切にされていたと伺いました。

旅行に御一緒させていただいた時には、「この帽子はなあ〜」なんて蘊蓄を聞かされたものです。

カラオケの十八番は六甲おろしでした。11 月に入り 10 日と 20 日頃、私と大学評議員の岩室隆氏と入院先である藤田保健衛生大学病院に御見舞に御邪魔させていただきました。

赫灼とされ明日にでも退院されそうにも見えました。しかし、12 月 1 日に澤柳さんの同級生でもある江上名誉教授、そして親交の深かった榊原氏が御見舞に行かれた時には、ただ、「がんばれ」としか言えなかったと聞いています。

私も澤柳氏には随分お世話になりました。校友会会長に推挙頂いたのも、澤柳氏が機械会の会長でしたし、

校友会会長選の書類を作成して頂いたのも彼でした。

彼のパソコンには私の全てが入っていました。元気な時に「先輩、私いろんなガンを経験してきました。今は味覚も少しずつ戻って来ました。白血球が人の半分しかありませんが、まだまだ大丈夫」と話しておられたのがつい昨日の様に思われます。

享年 76 歳

心から哀悼の意を表すると共に深く御冥福お祈り申し上げます。



2013 年第 56 回名城大学機械会総会にて



2013 年機械会杯&機械工学科長杯争奪ソフトボール大会にて

## OB 近況報告

オークマ株式会社 ソリューション開発センター  
ものづくりサポート課 齊藤 梓  
平成 23 年卒



### ●はじめに

当社は 1898 年に製麺機を製造、販売する会社として操業を開始し、1904 年から工作機械の製造をスタート、2018 年に 120 周年を迎えた工作機械メーカーです。

私は 2011 年大学を卒業後、入社。1 年間の現場研修を終え、ソリューション開発センターという部署に配属になりました。

### ●日々の業務

私の所属する部署は、お客様の加工をサポートする役割を担っています。

例えば機械を購入いただいたお客様へ、機械の使い方や加工方法を教えるインストラクタ業務や、当社の機械でお客様の製品が加工できるかを確認する試験加工の実施、機械展示会でのデモ加工等、多岐にわたります。

当社の業務の多くは工作機械の開発、生産に携わるものですが、私の部署は自社の工作機械を使う側となるため、お客様により近いところで考えることができます。そこから、お客様がどんな機械を必要としているのか、どんな加工で困っているのかを技術的な目線ととらえ、ニーズを社内に広げることも重要な業務です。

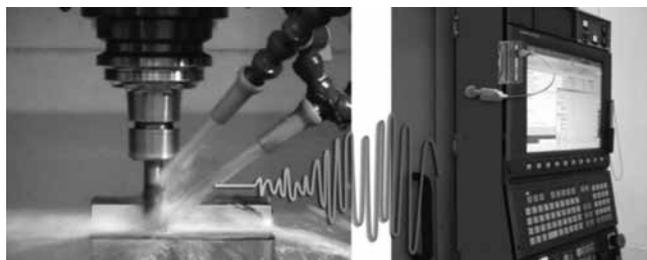
### ●製品ができるまで

工作機械で加工するためには、機械に工具や加工物を取り付ける段取り作業。そして、加工形状になるよう機械を動かすための、プログラム作成作業があります。

一つの製品を完成させるまでには様々な準備の中で、その製品の用途や連結する部品との整合性も考えなければなりません。それら製品の特性も考えた上で加工していく必要があるため、広範囲の分野の加工に対する知識が必要です。また、正しく段取りしプログラムを作成しても、上手く加工できないこともあります。

例えば工具の突き出し量を長くしなければならぬ場合、加工状態が不安定になり、振動が発生します。これにより、加工面にビビリ目と呼ばれるガタガタの目が出てしまいます。これでは製品として成立しません。これまではこのビビリ目を、職人さんがノウハウと言われる熟練の技で解決されてきました。しかし、現在はこういったノウハウを持った、熟練の技術者と呼ばれる方が減少しています。当社では誰でも簡単にビビリの対策ができる、加工ナビという機能を持っています。この機能はボタンを ON/OFF するだけで、機械の制御でビビリの抑制をするような動きをします。このような作業の方をサポートする機能がオークマにはいくつもあり、これらを智能化技術として様々なお客様に使用していただいています。

私の業務の中にはこの技術をお客様に伝えるという業務もあります。展示会等でこういった最新の技術を使った加工デモを行い、どれくらいお客様の生産に対してメリットがあるのか、自社の技術を最大限アピールします。最新の技術と私が培ってきたノウハウで、お客様の問題を解決する手助けができた時は、これまでの努力が意味のあるものだったと実感することができます。



### ●今後は

自社の機械を最もよく知り、使いこなすことのできるプロフェッショナルになるべく日々努力していきます。

## 「機械会賞」受賞のことば

理工学研究科 機械工学専攻  
新實 和真

この度は、「機械会賞」という荣誉ある賞を賜りましたこと深く御礼申し上げます。錚々たる歴代受賞者の末席に名を連ねさせて頂くことを大変光栄に思います。2014年の春、機械工学科に入学して以来、私は主体的で自立したエンジニアを目指して一生懸命に勉学とソフトボールや名城大学卒業アルバム委員などのサークル活動に打ち込んできました。この4年間には様々な思い出が詰まっていますが、特に印象に残っている出来事が2つあります。

1つ目は、機械工学科が実施している国際専門研修プログラムへの参加です。3年生の春に「機械におけるグローバル設計交流研修」と題し、学生8名でカリフォルニア大学デービス校での機械設計・製作の授業に参加し、現地学生との交流を行いました。海外の学生に向けて自ら製作したコーヒー豆焙煎機を英語で紹介できたことは貴重な経験となり、自分自身の視野を広げる良い機会となりました。

2つ目は、1年間取り組んだ卒業研究です。私は「微粒子衝突 (FPB) 処理による高強度アルミニウム合金の創製」に関する研究に取り組んでいます。研究に取り組む過程で、微視組織観察やビッカース硬さ測定で何度も実験を繰り返し、挫折しそうになりましたが、「絶対に自分自身に負けたくない」という一心で何度も夜を徹して研究をやり遂げたことは、私の今後の自己実現への強い意志となると思います。

今回、このような賞を頂きましたのも、常日頃から懇切丁寧に研究のご指導や人間教育をして頂いた来海博央先生をはじめ、熱心に授業をして頂いた機械工学科の先生方、どんな時も思いやりを持って接して頂いた研究室の先輩方や仲間たち、そして生活面で多大なる支援をして頂いた家族のおかげです。この場をお借りして、皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今後、大学院では今回頂いた賞を誇りに、今後もより一層研究に励み、学生の模範となれるように日々精進する所存でございます。また、大学院卒業後は、周囲の人から信頼される立派なエンジニアとして大きく羽ばたき、社会に貢献できる人材

となれるように精一杯努力致しますので、今後とも皆様方のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。最後に、名城大学機械会の今後の益々のご発展を心よりお祈り申し上げて受賞の挨拶とさせていただきます。



トピックス

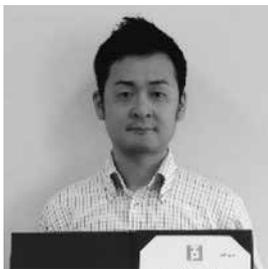
受賞者 藤山一成教授  
 受賞名 Award at the HIDA-7 Conference (プラント健全性にかかわる寿命評価研究業績賞)  
 受賞日 2017年5月23日  
 開催地 英国・ポーツマス市  
 受賞テーマ  
 Damage Informatics Concept for Plant Life-cycle Management (プラントの寿命管理のための損傷情報学概念)



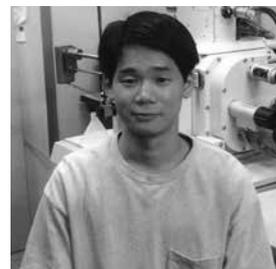
受賞者 福田康明名誉教授  
 受賞名 一般社団法人日本人間工学会 功労賞  
 受賞日 2017年6月3日  
 開催地 日本大学生産工学部 津田沼校舎 (千葉県習志野市)  
 受賞理由  
 永年にわたり同学会の各種事業の遂行に顕著な功績があり、発展に寄与したと認められること



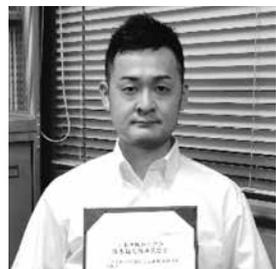
受賞者 吉川泰晴助教  
 受賞名 一般社団法人日本塑性加工学会 学会賞「新進賞」  
 受賞日 2017年6月8日  
 開催地 じゅうろくプラザ (岐阜市)  
 受賞テーマ  
 板鍛造における面圧依存型摩擦法則の構築



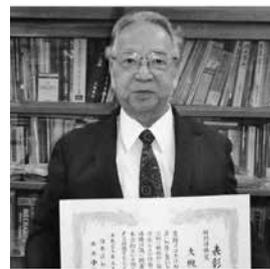
受賞者 山崎敦貴さん (修士課程1年、  
 受賞名 文部科学省ナノテクノロジープラットフォームフォーラム平成29年度学生研修プログラム  
 受賞日 2017年8月1~4日  
 開催地 東北大学 (宮城県)  
 受賞テーマ  
 No.2 「FIBによる電顕観察試料作製とTEMによる観察・分析」



受賞者 吉川泰晴助教  
 受賞名 一般社団法人日本塑性加工学会 優秀論文講演奨励賞  
 受賞日 2017年8月25日  
 開催地 平成29年度塑性加工春季講演会 (岐阜市)  
 受賞テーマ  
 ドライ円板圧縮による新規摩擦法則の検証

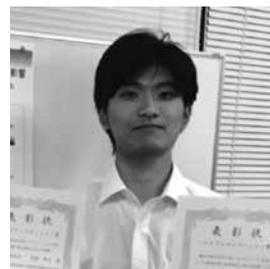


受賞者 大槻敦己教授  
 受賞名 日本ばね学会賞 (特別功績賞)  
 受賞日 2017年9月27日  
 開催地 私学会館 アルカディア市ヶ谷 (東京都)  
 受賞テーマ  
 永年にわたり同学会の学術および技術の発展に尽くした功績が極めて顕著であると認められたこと



受賞者 大橋孝太さん (修士課程1年  
 受賞名 日本材料学会第3回材料WEEK若手学生研究発表会・ベストプレゼンテーション賞  
 日本材料学会第3回材料WEEK若手学生研究発表会・ベストディスカッション賞  
 受賞日 2017年10月10~11日  
 開催地 京都テルサ (京都府)  
 受賞テーマ  
 微粒子衝突処理を施したアルミニウム合金における微視組織が疲労強度に及ぼす影響

来海博央教授研究室)



受賞者 吉田拓海さん (修士課程1年、  
 受賞名 一般社団法人日本設備管理学会東海支部 学生研究発表会 最優秀奨励賞  
 受賞日 2018年3月2日  
 開催地 愛知工業大学自由ヶ丘キャンパス (名古屋市)  
 受賞テーマ  
 Logistic関数によるガスタービン静翼のき裂進展特性解析

藤山一成教授研究室)



受賞者 黒川絢加さん (機械工学科4年、成田浩久准教授研究室)  
 受賞名 一般社団法人日本設備管理学会東海支部 学生研究発表会 最優秀奨励賞  
 受賞日 2018年3月2日  
 開催地 愛知工業大学自由ヶ丘キャンパス (名古屋市)  
 受賞テーマ  
 等高線加工におけるラジラスエンドミルの切削の特徴



受賞者 成田浩久准教授  
 受賞名 一般社団法人日本機械学会生産システム部門 部門貢献表彰  
 受賞日 2018年3月14日  
 開催地 明治大学駿河台キャンパス (東京都)  
 受賞理由  
 部門幹事や表彰委員長などの活動を通じ、生産システム部門の運営と発展に多大なる貢献が認められること



## 第10回機械会杯ゴルフ大会開催のご案内

拝啓 会員の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃は機械会活動にご支援、ご協力をいただきまして誠に有難うございます。

さて、機械会会員相互の交流を図ることを目的に、学内の先生方にも参加いただき「名城大学機械会ゴルフ大会」を下記の要領にて開催いたしますので、お忙しいと存じますが、何卒ご都合をつけ参加願えますよう、ご案内申し上げます。

### 記

- 1 日 時 平成 30 年 9 月 9 日 (日) 集 合 7 : 30  
OUT・IN スタート 8 : 00
- 2 場 所 正眼寺カントリークラブ
- 3 住 所 岐阜県美濃加茂市伊深町 2345  
TEL 0574-29-1891 公益社団法人日本パブリックゴルフ協会
- 4 会 費 プレー代 12,500 円前後 (個人精算)  
(昼食 & コース売店各 1 ドリンク・パーティ & 1 ドリンク含む)  
参 加 費 1,000 円 (パーティ会場で徴収します)
- 5 競技方法 ダブルペリア方式 競技終了後、表彰式を行います。  
使用ティ レギュラーの部 : 白マーク使用  
グランドシニアの部 : 銀マーク使用可
- 6 賞 品 機械会からの支援金があります。
- 7 参加人数 10 組 (40 名)
- 8 申し込み メール又は FAX にてエントリー願います
- 9 締め切り 定員になり次第、締切りします。

担当：大野・森澤

宛先 名城大学機械会 FAX 0568-81-8639

機械会 ゴルフ大会 参加エントリーします。

	お名前	連絡先 (住所)	卒業年度
		電話番号 (携帯)・FAX	生年月日

申込締切日：予定を組み入れ、早めの予約をお願いします。

【問合わせ先】 Tel 090-5115-6472 Fax: 0568-81-8639 【機械会: 森澤 厚 (S45)】

: E-mail : < morisawa@ukai-s.co.jp >

## 平成 29 年度事業報告（案）

平成 29 年度の事業経過は以下の通りです。

1. 名城大学機械会誌第 51 号を発行し、会員各位に送付した。
2. 名城大学機械会第 60 回総会を次の通り開催した。
  - ・日時：平成 29 年 6 月 11 日（日）9：30～10：20
  - ・場所：名城大学共通講義棟南館 S402 講義室
  - ＊審議・報告事項＊
  - 江上会長挨拶の後、以下の項目について審議・報告を行った。
    - (1) 平成 28 年度事業報告および会計報告がなされ、承認された。
    - (2) 平成 29 年度事業計画（案）および予算（案）について審議し、承認された。
    - (3) 定年退職教員へ記念品贈呈。
    - (4) 新任教員の紹介。
    - (5) 新役員及び新評議員紹介。
    - (6) 名城大学機械会設立 60 周年記念事業説明。
3. 名城大学機械会設立 60 周年記念事業を開催。
  - ・日時：平成 29 年 11 月 11 日（土）15:00～20:00
  - ・場所：名古屋ガーデンパレスホテル
  - ＊事業内容＊
    - (1) 記念式典
    - (2) 記念講演会  
名古屋大学 教授 天野 浩 氏  
演題「世界を照らす LED」
    - (3) 記念祝賀会
  - ※事業開催準備のため 6 回の実行委員会を開催。
4. JABEE に伴う外部評価委員会の活動への参画。  
（平成 30 年 2 月 10 日開催）
5. 機械工学科教員との懇談会を開催。
  - ・機械会の今後の活動方針の参考とするために教員との意見の交換を行った。（平成 30 年 2 月 22 日開催）
6. 第 9 回機械会杯ゴルフ大会開催。
  - ・日 時：平成 29 年 9 月 10 日（日）
  - ・場 所：正眼寺カントリークラブ
  - ・参加者：30 名
  - ・優勝の平成 1 年卒藤原政人氏に機械会杯が授与された。
7. 次の学生行事に対し援助を行った。
  - ・名城大学機械会杯（第 48 回）& 機械工学科長杯争奪ソフトボール大会への援助。（平成 29 年 9 月 11 日開催）  
江上会長が開会式に出席して挨拶および始球式を行った。また、大会後の親睦会で野村副会長より優勝チーム（清水研チーム）に優勝旗を授与。2 位 3 位チームにもそれぞれ賞状及び副賞が手渡された。
  - ・平成 29 年度卒業記念パーティーへの援助。（平成 30 年 3 月 20 日 ANA クラウンホテル）江上会長および森澤・野村・大野 3 副会長と堀川元会長が出席。卒業生に対し江上会長より祝辞を送るとともに、第 11 回機械会賞受賞者の來海ゼミ新實和真君に賞状および記念品を授与。
  - ・準会員（在校生）へ機械会誌「51 号」を配布した。
8. 理工同窓会および各学科同窓会主催行事への参加。
9. 機械会評議員会の開催。  
平成 29 年度において、7 回の評議員会（平成 30 年 2 月 24 日最終）を開催し、種々の審議を行った。

## 平成 30 年度事業計画（案）

本会会則に掲げる本会の目的達成に必要な事業を行う他、本年度は特に次の事業を中心として活動する。

1. 平成 30 年度第 61 回総会の開催。  
平成 30 年 6 月 10 日、9 時 30 分～、  
会場：名城大学天白キャンパス S402 号室
2. 評議員会・幹事会の開催。
3. 名城大学機械会誌第 52 号を発行し、機械会ホームページに掲載。あわせて、正会員の郵送希望者および準会員（在校生）へ配布する。
4. 名城大学機械会杯（第 49 回）& 機械工科学科長杯争奪ソフトボール大会への援助と日本機械学会東海学生会第 48 回畠山杯争奪ソフトボール大会出場チームへ援助。
5. 平成 30 年度卒業記念パーティーへの援助。
6. 機械工学科教員と機械会役員との懇談会の開催。
7. 各研究室のゼミ長と機械会役員との懇談会の開催。
8. 在校生を対象としたキャリア事業の開催。
9. 機械工学科 4 年生への機械会賞授与。
10. JABEE に伴う外部評価委員会の活動への参画。
11. 機械会杯ゴルフ大会の開催。
12. 年末または新年交流会の開催。（平成 29 年度は 60 周年事業開催）
13. 理工同窓会および各学科同窓会主催行事への参加。
14. その他、本会の目的達成に必要と認められる行事。

## 平成29年度 名城大学機械会 会計報告 (案)

(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) [単位:円 消費税込み]

科 目		予 算	決 算	備 考
収入の部	前年度繰越金	-454,974	-454,974	
	新入会員会費	1,340,000	1,290,000	129名(29年度卒業者数)
	理工同窓会援助金	270,000	282,000	助成金・卒業記念品代
	繰入金	2,000,000	2,000,000	* 運営資金積立金より繰入補填
	雑収入	4,974	9,323	懇親会残金, 利息等
合 計		3,160,000	3,126,349	
支出の部	会誌発行費	1,100,000	1,015,818	第51号印刷, 会誌発送費, 封入封緘, OP封筒代等
	行事費	660,000	367,856	学生行事援助(卒業記念Party等), M科教員懇談会等
	会議費	550,000	308,391	評議員会(7回), 小委員会(編集1回) * 交通費含む
	事務費	40,000	37,350	事務用品, Prt.インク, 貸金庫手数料(名銀)等
	HP/ウェブサイトメンテ費	150,000	139,666	HPTメイン・メンテナンス関連
	運営資金積立金	0	0	
	予備費	660,000	507,921	退職記念関連, 他同窓会交流会祝儀
	計	3,160,000	2,877,002	機械工学科教育基金贈呈/(機械会設立60周年記念事業)
次年度繰越金			249,347	
合 計		3,160,000	3,126,349	

・運営資金積立金現在高  
14,587,204 円  
 ・名城大学「機械会賞」基金  
2,352,044 円  
 (平成 30 年 3 月 31 日 現在)

会計監査報告  
 種々調査の結果、収支ともに相違なきことを証明します。

会計監査 鈴木吉正 ㊞  
 中村達郎 ㊞

## 平成30年度 名城大学機械会 予算 (案)

(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日) [単位:円 消費税込み]

科 目		予 算	備 考
収入の部	前年度繰越金	249,347	
	新入会員会費	1,450,000	145名[30年度卒研着手者(=卒業予定者)]
	理工同窓会援助金	280,000	下部組織助成金
	繰入れ金	300,000	運営資金積立金より繰入れ
	雑収入	10,653	寄付, 利息等
合 計		2,290,000	
支出の部	会誌発行費	500,000	第52号印刷, 機械会封筒代, 郵送代
	行事費	600,000	学生行事援助(スポーツ大会, 卒業記念Party, ゼミ長懇談会, 就職セミナー等)
	会議費	350,000	評議員会, 役員会, 編集会議, 各種委員会等
	事務費	40,000	事務用品, はがき, 郵送費等
	HP/ウェブサイトメンテ費	150,000	HP/ウェブサイトメンテナンス保守費用
	運営資金積立金	0	
予備費		650,000	学科教員との懇談会, 他同窓会交流会祝儀, 交流会(フェスタ)関連等
合 計		2,290,000	

名城大学機械会



# 設立 60 周年記念事業

2017.11.11 [sat]

記念式典・記念講演会・記念祝賀会

ホテル名古屋ガーデンパレス

## 記念式典・記念講演会



2014年ノーベル物理学賞受賞者  
名古屋大学 教授  
天野 浩氏



## 記念祝賀会

